

社会福祉法人・学校法人 イエス団



# イエス団報

Jesus band news

2023/12/24

# 28

再刊 28号

- 理事長就任あいさつ 神崎清一
- 前理事長礼拝メッセージ 黒田道郎
- 甲子園二葉幼稚園創立 100周年記念
- 研修報告
- 施設紹介
  - 神視保育園
  - 天使虹の園
- 「内部通報制度」と「コンプライアンスの重要性」について
  - 社会保険労務士法人ベスト・パートナーズ
  - 代表社員 米田 憲司
- イエス団の輪っ
  - 黒川陽子さん（甲子園二葉幼稚園）
  - 清水正樹さん（豊島ナオミ荘）
  - 野田陽子さん（神視保育園）
  - 横谷綾香さん（ガーデンロイ）
- 表紙写真の解説
- 編集後記

発行：2023年12月24日  
 発行者：神崎 清一  
 編集・発行：  
**社会福祉法人・学校法人 イエス団**  
 〒651-0076  
 兵庫県神戸市中央区吾妻通 5-2-20  
 TEL：078-221-9565  
 FAX：078-221-9566  
 https://jesusband.jp.  
 mail to: honbu@jesusband.jp



## ミッションステートメント2009

わたしたちイエス団の実践は、  
 1909年12月24日の賀川豊彦の献身に始まる。  
 そして、イエスの愛に倣い、互いに仕えあい、  
 社会悪と闘い、新しい社会を目指して  
 多くの協働者とともに今日まで歩み続けてきた。  
 この歴史を検証し、働きを引き継ぎ、  
 今、わたしたちはイエスに倣って生きる。

わたしたちは、いのちが大切にされる 社会をつくりだす  
 わたしたちは、隣り人と共に生きる 社会をつくりだす  
 わたしたちは、違いを認め合える 社会をつくりだす  
 わたしたちは、自然が大切にされる 社会をつくりだす  
 わたしたちは、平和をつくりだす

2009年12月24日

# ご挨拶



神崎 清一（かんざき せいいち）

- ・社会福祉法人 第八代理事長
- 学校法人 第六代理事長
- ・1953年7月 大阪生まれ
- ・筑波大学大学院修士課程修了  
（体育方法学野外教育専攻）

## 「誰が隣人になったのか」

本年7月の理事会におきまして、黒田道郎前理事長の後任として社会福祉法人ならびに学校法人イエス団の理事長として選任いただきました。

私は2010年よりこれまで、社会福祉法人の役員の末席に加えていただき、この期間、理事会や各種委員会、施設訪問などをはじめとした様々な機会を通して、法人の使命、各施設や事業の働き、先達の果たしてこられた役割、職員・スタッフの皆様の貴いお働きを学ばせていただきました。

私にとって理事のお役目でさえ大変過分なことであり、ましてや理事長という大役を考えますと、これまでの理事長、役員の皆様のご貢献とリーダーシップの偉大さを知れば知るほどに、与えられましたお役目の前に立ち尽くす者であります。

私たちのイエス団は、賀川豊彦初代理事長によって設立されて以来、社会の課題に真摯に向かい合い、時宜に応じた事業や活動を社会に提供し、奉仕の業として取り組んでまいりました。その中で社会福祉法人ならびに学校法人イエス団として認可を受け、法人としての取り組みを通して、それぞれの事業を更に深化させ、規模や拡充をすることで奉仕の業を高めつつ、社会に求められる組織として歩んでまいりました。

さて、このように法人格を持つ組織は、それぞれ定款・寄附行為を定め、法人の目的を適切に果たすことが求められます。まさに、それらは**社会への「約束」**と言えます。

そして、私たちは聖書に基づき、「**イエスに倣って生きる**」ことを宣言し、イエス団としてミッションステートメントを策定し、素晴らしい宣言をしています。

この宣言で私たちは、1)いのちが大切にされる社会をつくりだす、2)隣り人と共に生きる社会をつくりだす、3)違いを認め合える社会をつくりだす、4)自然が大切にされる社会をつくりだす、5)平和をつくりだすことを誓いました。

これはまさに、私たちの社会に対してのメッセージであり、何よりも大切なことは**神様との「約束」**として示したことであります。

皆様がよくご存知の聖書の箇所「善きサマリア人」の譬え話があります。そこでは律法の専門家が、イエスに「**私の隣人とは誰ですか**」という問いを投げかけます。この問いに対して、イエスはサマリア人の譬え話の後に、問に答えるのではなく「**誰が隣人になったのか**」と問い返しています。そして、寄り添い、実際の行動をおこした人ですという回答に対して、

イエスは「**あなたも同じようにしなさい**」  
とされました。

（新約聖書 ルカによる福音書 10章 37節）

私たちイエス団は創立からこれまでがそうであったように、これからも、小さくされた人に寄り添い、互いに仕え合うことを**実践する群れ**として、イエス団がこれからも豊かに歩み続けるために、甚だ微力ではありますが理事長としての働きができればと思いをあらたにしています。小さな枝として用いていただき、お支えいただきますようお願いいたします。

国籍、言語、文化や習慣の違い、性別や年齢、地位や貧富の異なりによって差別されることない社会を目指しています。疾病や障害、いじめや虐待によって取り残されることが無いように、小さくされた人の隣人になることが求められています。

私の好きな漢字に「優」があります。この漢字はまさに、憂いて小さくされた人に寄り添う人を表しています。そして、これこそが何よりも「**優る**」ものと思っています。

イエス団のすべての事業、各施設での活動の上に、連なる皆様お一人おひとりの上に、神様のお護りと祝福がありますようにとお祈りいたします。

そして、今わたしは、皆様と共に「**隣人になる群れ**」として歩むことができるようにと、日々奮い立たされ励まされております。どうぞよろしく願いいたします。

# 感謝して

2011年より12年間、理事長をお務めくださった黒田道郎先生がその職を辞されました。在任中は折に触れて私たちに力強いお言葉をいただきました。イエス団でのお働きに感謝申し上げます。施設長会議の開会礼拝でお話しくくださった説教を、私たちにむけたメッセージとして掲載いたします。先生、長い間ありがとうございました。お身体に ご自愛ください。

企画委員会



黒田道郎（くろだ みちお）

- ・ 社会福祉法人 第七代理事長
- ・ 学校法人 第五代理事長
- ・ 在任期間 2011.8-2023.6

## 説教題 「愛が中心」

この度理事長を退任した黒田道郎です。理事長という重責から解放されて非常に肩が軽くなったはずですが、今日の礼拝があったり、今、この後も何か原稿の依頼があるとかないとか聞いて、まだまだだと感じております。

私は教会の牧師しか社会経験のない者で、法人の理事長を務めるということ自体、大変無謀な話であったと思っておりました。村山盛嗣前理事長や、亡くなられた山口政紀元理事がわざわざ四国まで来てくださって、『理事長に』という推薦を受けた経過もあり、また私の祖父が賀川先生と全国の伝道を二度敢行したときの、同伴者として仕えたということもありました。祖父、父、私と3代続いた賀川との深い結びつきにより理事長職を求められたと受け止めて、引き受けた次第であります。ただ本当に何もわからない者にとっては、ただ神様がやれと命じられたということだけを頼りにして12年間務めて参りました。

しかし最後の6年間は、糖尿病からくる腎不全に陥って人工透析を受ける身になり、週3回、1回4時間の透析を受ける生活になって以降、体力がみるみる衰えていくのを感じました。実は今立っているのがやっとという状態で、また目もなかなか見えにくくなって、理事長としても限界だということで、高田裕之常務に退任したいという旨をお伝えいたしました。

新しく理事長になられた神崎清一理事長は、私と同じような経歴というとおかしいんですけども、大阪体育大学

を振り出しに、東京大学やまた筑波大学で、スポーツの関係の学科を専攻され、そしてYMCAに入られたという形で、私も神学校に入る前は、教育学部の中学校の教師になる課程を専攻した者として、体育科の教師の免状だけ持っています。ですから、非常に相通ずるようなことがあって嬉しい限りであります。私よりも非常に優れた方でありますので、イエス団をますますしっかりした団体にしてくださることは間違いないと信じております。

今日は、牧師としてこの場に立ちながら、聖書を通してイエス団にとって一番中心になるもの、すなわち「愛」をご一緒に深く覚えたいと願っています。

賀川精神の中心になるもの、土台になるもの、それはキリスト教の愛であるということは言うまでもないことでもあります。

賀川先生は幼い時代、とても不遇な日々を過ごされました。非常に裕福な家庭で育ってはいましたけれども、いわゆる本妻の子ではないという立場で非常に苦しい生活でありました。孤独で寂しい生活、少年時代でありました。

その賀川先生が救われたのは、旧制徳島中学時代に、徳島教会という教会で宣教師からバイブルクラスで英語の勉強を教えてもらうということから、教会に出入りするようになり、そこで宣教師の先生から愛されたという経験がきっかけであります。

不遇で孤独な賀川少年が、宣教師の愛を受けて愛される喜びというものを感じた。そこから、賀川の人生が変わったわけであります。自分は愛を伝える伝道者になりたい。牧師になりたいということを志し、さらに伝道者になってからは、今度は愛を教えるだけではなく、愛を伝える人、また愛を実践する人として、神戸のスラム街に身を投じました。そのことから今日のイエス団が始まったと言えるわけであります。

したがってイエス団に属する施設の方々は、この賀川の愛を中心にすべきだというのが私の一番申し上げたいことでもあります。

今日選んだテキストは、新約聖書「コリントの信徒への手紙一 13 章 13 節」であります。短い箇所だけ取り上げましたけれども

『それゆえ、信仰と、希望と、愛、この三つは、いつまでも残る。その中で最も大いなるものは、愛である。』

この言葉はキリスト教会では大変好まれる聖句でありまして、色紙だとか、またキリスト教グッズに「信望愛」この三つはよく使われるものであります。キリスト教信仰の最も基本をなす言葉であります。

さらにこの「コリントの信徒への手紙一 13 章」というのは、愛をテーマにしてずっと書き連ねられたものであります。今日は 13 章 1 節から 7 節までを朗読したいと思えます。

『たとえ、人々の異言、天使たちの異言を語ろうとも、愛がなければ、わたしは騒がしいどら、やかましいシンバル。たとえ、預言する賜物を持ち、あらゆる神秘とあらゆる知識に通じていようとも、たとえ、山を動かすほどの完全な信仰を持っていようとも、愛がなければ、無に等しい。全財産を貧しい人々のために使い尽くそうとも、誇ろうとしてわが身を死に引き渡そうとも、愛がなければ、わたしに何の益もない。愛は忍耐強い。愛は情け深い。ねたまない。愛は自慢せず、高ぶらない。礼を失せず、自分の利益を求めず、いらだたず、恨みを抱かない。不義を喜ばず、真実を喜ぶ。すべてを忍び、すべてを信じ、すべてを望み、すべてに耐える。』

そういう言葉の後に今日のテキスト、13 節が位置づけられているわけであります。とにかく愛がなければ無に等しい。このように愛にこだわったパウロの主張であります。

私達も賀川精神の胆になる愛、それを理解しようとしても、この愛という言葉自体、少し丁寧に理解する必要があると思うのです。とかく日本語の愛、英語の LOVE も同様ですけれども、何か好きという感情と深く結びついた言葉として使われることが多いのではないかと思うのです。

一口に愛すると言っても、なかなか愛せない。今日の聖書にあるように、愛は情け深い、忍耐強い、いらだたない。

そういう言葉を言われますと、これは私には無理だと。誰もが降参してしまうような内容のことが語られているわけであります。

話が少し脱線しますけれども、私は毎月 1 回刑務所に行き宗教教誨を行っています。もう教誨師として 20 年以上徳島刑務所に月 1 回参っておりますけれども、今月も 7 月の初めに行きまいりました。1 時間のグループ教誨といって、7~8 人集まる場所で聖書の話をし、終わった後、今度は 1 人ずつ個人的に相談をしたいと、また話を聞きたいという方の要望に応じて、個人教誨を行っています。

今月の個人教誨の時に、初めて会った人が「愛するにはどうしたらいいか教えてください。」という直球をいきなり投げかけてきたわけであります。

牧師としてびっくりするようなことで、また非常に嬉しい質問ではありましたが、これは身構えて答えられないかと思いました。

よく話を聞くと、その方がなぜそういうことを言ったかということ、その方は施設の中で非常に人間関係に悩んでいると。とにかく檻に囲まれて自由に行動できない。もうストレスが溜まって仕方がない。しかも生活する場は 1 人一畳のスペースしかない。ちょっとでもはみ出ると、すぐいざこざの喧嘩になると。また収容されてる人たちは非常に短気な人、カッとする人、また心が曲がってる人が多いので、意地悪をされたり、喧嘩を吹っかけられたり、いろいろな形で困ると。できるだけ問題を起ささないように過ごすことが一番賢明な方法なので、自分としては穏やかに過ごしたいと。いくら相手が悪くても、対立して喧嘩になりませんと、それは喧嘩両成敗で懲罰の対象になると。いろいろな特権が剥奪されたり、また刑期も短くならないという不利なこともある。だから自分としては人付き合いを考えているうちに、「人を愛する」というキリスト教の教えに非常に興味があるということで個人教誨を申し出られたということでした。

大体のきっかけが理解できたところで、その人に対して、「人間が持っている愛では人を愛せませんよ」とズバリ言いました。わざと言ったのです。

キリスト教の愛、聖書の愛というのは神様の愛であって、人間の愛とは質が違ふと。どう違ふかということ、人間の愛は価値あるものを愛する。好きなものを愛する。また自分にとって有利になるものを愛する。したがって無価値なもの、見返りが無いものを愛することはできない。特に嫌いなもの、嫌いな人を愛することは、これは人間では絶対にできないと、正直に申し上げました。非常に悲しそうな顔を一瞬されましたけれども、でも聖書が説く神の愛というのは、愛する価値のないものを愛する。また人を選ばずにどんな人でも、どんな人をも、またどんな時にもいつも愛してくれるのが神の愛である。

聖書の言語のギリシャ語でも、「アガペー」という神の愛と「フィリア」という人間の愛と使い分けている。だから「アガペー」の愛を知ってほしい、その愛によって人を愛してくださいとお話しました。ちょっと1回30分のお話では難しいと知りつつ、とにかくぶつけてみたわけであり

ます。あまりにも理解できないような顔してたので、愛するというのを「大事にする」という言葉に置き換えて試してみたらどうですか、というふうに勧めました。愛するというのは、人間の愛では好きな人を愛するということはできるけれども、嫌いな人は愛せないということだけでも、大事にするというのは、好きな人も嫌いな人も、好き嫌い関係なしに相手を大事にするということでは

できるはずだ。だから相手を大事にするという愛を実践してみようかという形で勧めました。

できれば聖書をしっかり読んで、また教会に申し出て、キリスト教に近づいていただければ、牧師としては嬉しいんだけど、ということをお伝えしました。半分納得したような、また半分わからない顔をしてその個人教誨の時間は過ぎました。

いつも私が申し上げていることですが、「愛する」という言葉を「大事にする」という言葉に置き換えて、聖書の愛、神の愛を考えていけば、少しはわかりやすくなると思っております。

どの神学辞書を見ても、愛するという言葉、アガペーでもそうですが、英語のLOVEでも、「大事にする」という翻訳をしている辞書は今まで見たことはないのであります。

ただ、何年か前にカトリックの殉教者を研究する神父さんの話を聞いた時、戦国時代、日本にはたくさんの宣教師がやってきて、その宣教師たちが本国に状況報告したり、また手紙を書いた資料があるそうです。

ある宣教師は、「ヨハネによる福音書1章1節」の言葉、「初めに言があった。言は神と共にあった。言は神であった。」非常に哲学的な表現で私達にもなかなか理解できないような内容であります、「初めに賢い者ごさる」という訳し方をしました。ロゴスというギリシャ語には言葉という意味がありますが、それを賢い者と訳したのは大変有名です。いろいろ苦労しながら日本語にしたことがわかりますが、ある宣教師が「愛」という言葉を「ご大切に」と訳したものがあつたということを紹介してくれました。

愛という言葉に「ご」をつけて、「ご大切に」と訳したということは非常に心を打ちました。あながち私が考えてることが間違っていないということに自信を持ちました。とにかくとことん相手を大事にする。そういう愛によって賀川先生は事業を起し、そして今私たちがある。そのように結びつけていいと私は思っています。

とにかく私たちイエス団に属する、イエス団の施設に属する者、特にそれぞれの施設をまとめる立場にある施設長の皆様は、愛にこだわって、また人を大事にするという思いで事業に当たる。保育、介護、教育に当たる。そのように心がけていただければ幸いです。

さらに、牧師の立場で言うと、キリスト教の愛を理解するには、キリスト教の教会の礼拝に加わることがまず出発点ではないかと思っています。

その刑務所の受刑者の方に、キリスト教を学んで欲しいと言っても日曜日に教会に来れるはずないので、非常に苦しい信仰生活になるかと思いますが、皆様は、どうぞ近くの教会なりまた関係のある教会で、ぜひ礼拝に出ていただきたい。

このことを牧師としてお願いをしながら終えたいと思います。

祈ります。主なる神様、今私たちは、あなたの建てられたイエス団の施設で、その責任を担っているものであります。コロナ禍やまたいろいろなことを社会の動きの中で、いろいろ翻弄されながら、私たちがなくてならぬもの、また必要なものをしっかりと持ち続けながら、他の施設にはない強みを生かして、人を大事にする、人を愛する施設として歩いていくことができるように施設長はじめ、職員の方々、管理者の方々をどうぞあなたがしっかりと捉え導いてください。イエス団が新しい理事長を迎えて、ますます歩み力が強く、前進することができるように、どうぞ聖霊の力強い導きを増し加えてください。

この願いと感謝、尊き主イエス・キリストの御名によって御前にお捧げいたします。

アーメン。

施設長会議 開会礼拝より

2023年7月20日 於：賀川記念館礼拝堂

# 甲子園二葉幼稚園創立100周年を迎えて

～Link to the future つ・な・ぐ～



2023年12月2日、甲子園二葉幼稚園は創立100周年を迎えました。イエス団の皆様には、日頃より多くのお祈り、お支えをいただき、この場をお借りして御礼を申し上げます。それ以外にも、当園の歩みの中にはたくさんの素晴らしい先生方、同窓生、保護者、また園児たち、そして歴史を共にしてきた甲子園二葉教会の皆様。すべてをここに記せませんが多くの方々のお支えを受けて100周年を迎えることができました。何よりこの歩みの全てを導いてくださっている神様に心から感謝を申し上げます。

当園は、西宮市で最初につくられた私立幼稚園です。初代園長を務めたキリスト者で実業家の小泉澄氏は1916年頃今津にクリスチャン専用のアパートを建て、そこに入居してきたのが北田正三氏とそのお連れ合いです。この人は牧師になるために関西学院大学神学部で学ぶ神学生でした。この頃北田氏は土曜日に近所の子どもを集め、聖書をお話して一緒に遊ぶ土曜学校を自宅で開催していたのです。週を追うごとに土曜学校に集まる子どもたちが増えていき、自宅には入り切らなくなっていました。それを見た小泉氏の計らいで、横にあった小泉氏の祖父の家で土曜学校を行うようになったのです。しかしなおも子どもが増え続け、小泉氏は横の畑をさらに購入しそこと合わせて2階建ての建物を作りました。



旧園舎

これが甲子園二葉幼稚園の原型となり、この集まりが1923年には正式に幼稚園の認可を受け、初代園長に小泉澄氏が着任しました。その十数年後、幼稚園の経営が難しくなり園存続の危機に直面することになりました。当時副園長を務めていた吉田幸氏が賀川豊彦氏に相談を持ちかけたことから、私たちは1937年に財団法人イエス団に加入することになり、その時からイエス団の一員として歩んでいます。

その当時、日本は戦時下であり、1945年の西宮大空襲の中で当園の園舎はすべて焼失し、その後数年間は閉鎖を余儀なくされました。その他にも高潮町から三保町の現園舎への新築移転、そして阪神淡路大震災。100年の間には大きな困難や変化を経験することも多くありましたが、その中でも皆様から支えられ歩むことができました。



ある年の卒園写真（上段左より吉田幸先生・吉田源次郎先生）

さて、私は園長といってもようやく2年目を迎えた若葉マウク付き園長です。慣れない園運営でぐったりしている私に子どもたちが「えんちょうせんせ〜い！」と無邪気に声を掛けてくれ、それで元気をもらっています。



現場の教諭たちは毎日忙しくしていますが、喜びをもって子どもたちと共に過ごしています。パソコンのキーボードの上のボタンを押すとカーソルは命令通り上に移動しますが、子どもたちは、パソコンに置き換えると、上を押しても下や右にいくようなものです。なかなか思い通りにならないような場面を見ることもあります。独立学園高等学校の校長をされた安積力也氏は、「教育とは待つことだ」とよく仰っていましたが、幼児教育の現場は、それを言葉通りに行っているようなものだと感じています。忍耐と粘り、そこから生まれる喜びの現場だと受け取っています。



毎年秋になると園児募集があり、当園が選ばれる幼稚園であるかということに緊張しながら向かいます。願書受付時の面接で、保護者の皆様にご当園を選んでくださった理由を伺うと「二葉の先生の子どもへの声のかけ方が良い」とか「子どもの考えていることを尊重して接してくれている」という声を多く聞きます。このような評価をいただく中、次年度の入園児は十分に満たされたことを、感謝をもって報告いたします。

さて、私たちは創立100周年記念事業として、二葉フェスティバル(11月3日)、礼拝・式典(12月2日)、音楽コンサート(1月17日)、募金、そして絵本の制作を行っています。お忙しい中にお越しくださった皆様、どうもありがとうございました。絵本については、全てのイエス団の施設にお渡しできるようにいたします。手前味噌ですが、素敵な絵本作家を招くことができ、当園にとって相応しい絵本ができたと思っています。



私達と両輪で歩んでいるのが甲子園二葉教会です。甲子園二葉教会は、キリスト教保育を行う当園の歩みを物心共に支えてくださっています。それは信仰的な部分だけではなく、現在は教会から3名の方が見守り隊として、ボランティアで登園時に門に立ってくださり、子どもたちを迎えてくださっています。また創立100周年実行委員会のメンバーにも教会からお手伝いをいただいています。

最後になりますが、私たちは100周年を迎えるにあたり軸となるスローガン「Link to the future つ・な・ぐ」を作りました。このスローガンを掲げ、今までの100年間に私たちが行ってきたことを思い起こし、次の100年をつくる未来の人たちに何を伝えたいかを考え、発信できるような100周年となればと願っています。

イエスは言われた。

「わたしは道であり、真理であり、命である。」

(新約聖書 ヨハネによる福音書 14章 6節)

100年の歩みを思い起こす時、すべての背後にある神様のお働きを思わざるを得ません。神様がつくられた二葉という大きな道を通り、毎年子どもたちが卒園してそれぞれの細い道ができていきます。それぞれの道歩み、時には神様がつくられた二葉という太い道に戻って、また力を得て出ていくのです。それは二葉に関わられる方皆がそうだと信じています。イエス様(神様)という道歩み、そこから出発し、つながり、守られている。これからも聖書を基とし、キリスト教保育を中心とした幼児教育を行ってまいります。

甲子園二葉幼稚園に関わられた皆様と一緒にこの100周年を喜びたいと思います。



甲子園二葉幼稚園 園長 美濃部 信

# 研修会報告

## 新任職員研修会

2023年3月22日（水）または23日（木）

於：賀川記念館

3年ぶりに新任職員が2日に分かれてですが、集い、学び、仲間と出会うことができました。終了時アンケートに多くの人を書いてくださったように、対面だからこそ仲間と出会えた喜びを感じられたようでした。



新任職員研修は、イエス団の理念を理解すること、仲間との語らいのなかで、人と分かち合うことの大切さを知って職場に入っていく準備をすることを目的としています。

最も小さくされた人に寄り添い、その人達の為に働いた賀川先生が目指した社会は、一人ひとりが大切にされる、人と人が助け合える、みんなが幸せになる、共に生きる社会。私たちはその思いをつなぎ、それぞれの事業に携わっています。人を大切にすること、人権を大切にすることはキリスト教社会福祉の土台となっていることを心にとめました。



そして、そのことは先輩職員（フェローズ）の実践の話からも知ることができ、これから働く自分へのイメージが膨らんできたようです。先輩職員や仲間とたくさん話をすることは、自分の中にはなかった考えに遭遇したり、共感したり、再発見したり、自分について見つめなおす機会となりました。

そして、わたしのミッションステートメントを作成し、みんなの前で発表しました。決意が表情に表れていました。きっとそれぞれの施設で、作成したミッションを実行されていることと思います。たくさんの人と出会い、つながった人がみんな幸せになるようにと願い、自分にできることを日々考えながらすごしていることでしょうか。たくさん仲間とつながり、これからも一緒によりよい社会をつくりだしていきましょう。

報告：企画委員会 研修担当チーム  
神視保育園 園長 植月優子



### （参加者の感想より）

決意を述べることは実行することなのでとても緊張しました。意識を持って働くということはとても難しいですが、この研修をすることで自分が主体的にどのように働いていくべきかを知る事ができました。日々過ごす中で自分を知ることはとても難しいので今日の事を心に留め意識しながら働きたいと心に刻みました。

ミッションステートメントを読むだけでは知り得なかったことをたくさん知ることができ、働く上で意識をもつ事ができました。

甲子園二葉幼稚園 日置節子

普段、地元の人以外の人と話すことが無く、先輩保育士の方々と話すことは少なかったけれど、今回いろいろな保育士の在り方を学ぶことが出来て、とてもいい学びになった。不安なことがまだ多いけれど、挫けそうになったら今回の研修を思い出して頑張っていきたいと思った。

二宮保育園 宮本実紅

## ブラッシュアップ研修会

2023年6月16日（金）～17日（土）

於：賀川記念館

これまでの自分の仕事を振り返り、ミッションステートメント（以下MS）2009の理解を深め、その実践に向けて自分自身のMS 2023を明らかにする、これがブラッシュアップ研修の最も大切なテーマである。

しかし、そこには実はもう1つ見えない仕掛けがあったと思う。

それは、日常を離れて宿泊をすること。日々の生活（しがらみ）を感じさせない場所で、ともに時間を同じくするということが大きいのではないだろうか。

2019年以来の宿泊を伴う研修はコロナ禍でおこなうことができなかった。また、日常を離れて、ということを感じさせてくれる場所が六甲YMCAでもあった。ただ、残念なことに、この3年間の影響で、これまでのような利用は



できなくなりました。そのため、賀川記念館を研修会場として、宿泊は周辺ホテルとなった。それでも、宿泊を伴う研修をおこなえたということは、大きな意味があったと思われる。

いみじくも、開会礼拝と閉会礼拝に、そのメッセージが込められていたように思うのは僕だけだろうか。これは、それぞれ田村三佳子さんと平田義さんに尋ねてみたい。

#### ・ルカによる福音書 19章1節～10節

ザアカイは、イエスを見たいと思った。

人々から伝わってくる話ではなく、直に一目見たいと思った。ところがイエスは、そんなザアカイに声をかけるどころか、ザアカイの名前を呼び、しかも家にぜひ泊まりたいと言った。

#### ・ヨハネによる福音書 5章1節～13節

誰の目にも留まることなく、人としての尊厳を奪われた人々に対して、イエスはその場に赴き、直接言葉をかける。

極端な話、研修は ZOOM でもいいのではないかの声もあるだろう。時間、効率、研修効果……。そんな尺度ではなく、同じ場で過ごす、ともにそこにいて、ただ同じ時間をあなたと一緒にいる、それだけでも意味があるのではないか？

15 施設、18 名の参加者（長橋さん、野口さん、岡田さん、大西さん、須藤さん、柳川さん、大前さん、二五さん、藤井さん、野々村さん、増田さん、山口さん、吉本さん、田中さん、小林さん、角山さん、ノアさん、兵頭さん）と講師の川中さん、5名のスタッフ（平田さん、峰さん、田村さん、梅村さん、好崎さん）と、ともに過ごせたことに感謝。

報告：企画委員会 研修担当チーム  
支援センターあいりん 太田正人

## 全体主任会

2023年7月7日（金）

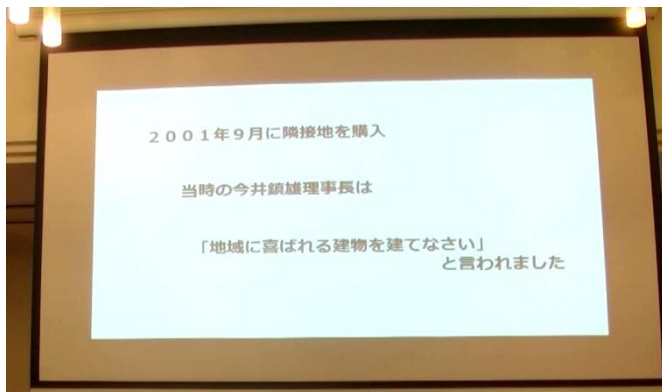
於：賀川記念館／オンライン：ハイブリッド開催

2023年7月7日にイエス団全体主任会が行われました。今年度は甲子園二葉幼稚園の田村三佳子先生に「イエスに倣って生きる～幼稚園併設型親子の居場所って～」と題してご講演いただきました。兵庫、大阪、京都、四国それぞれのブロックから16名の方々が出席して下さいました。

また、当日出席出来なかった方々も田村先生のお話を聞かせていただきたいという事で、You Tube での配信も行うこととなりました。



お話の中で、先生が『地域に喜ばれる園になる！子どもと大人の居場所になる！』と決意され、その後取り組まれてきた子育て支援事業のなどを聞かせていただきながら、『居場所』って何だろうと考えさせられました。誰もが安心して過ごすことが出来るように、誰もが笑顔でいることが出来るように、大人が笑顔でいたら子どもは楽しい！という言葉聞き、本当にその通りだと感じました。



大人というフレーズの中には子育てをしている保護者の方は勿論ですが、園や施設で働く職員も含まれています。園長と職員を繋ぐ橋渡しのような役割を担っている主任は、職員の笑顔を守っていく役割も同時に担っているとも感じました。

田村先生のお話の中では『ヨシュア記1章5節～9節』が引用されました。

「一生の間、あなたの行く手に立ちはだかる者はないであろう。わたしはモーセと共にいたようにあなたと共にいる。あなたを見放すことも、見捨てることもない。

～中略～

わたしは、強く雄雄しくあれと命じたではないか。うろたえてはならない。おののいてはならない。あなたがどこに行ってもあなたの神、主は共にいる。」

“私は私でいい！”と感じられたそうです。



私自身は、田村先生が仰っていた「雑草のようにたくましく！」とはなかなかならず、ポキポキと折れてしまうこともあります。完璧な人はいない、でも私らしくなら出来る！」という言葉に励まされ、それぞれの“自分らしさ”を大切にしていきたいと感じました。

また「自分を大事に出来なければ、人を大事に出来ない」との言葉も心に響きました。みんなの笑顔を守っていく為には自分の笑顔も守っていく。その為にも、このように集いながら意見交換を行い、悩みを分かち合っていく時間も大切だったと思います。

主任会に出席している間、現場を守ってくれている職員がいることにも感謝したいと改めて思いました。

主任会で数年ぶりに復活したのが、天国屋カフェさんのデザートです。たくさんの種類の手作りケーキやゼリー、すいかなどを用意していただき本当に感謝いたします。天国屋さんのスイーツをいただきながらのグループでの分かち合いの時間は、皆さん笑顔で談笑されており、その後のそれぞれのグループからの発表もとても前向きな内容が多かったです。笑顔を守れるものは意外と身近な事だったりするのかもしれないですね。

全体主任会は「イエスに倣って生きる」という題目で、それぞれの施設の施設長へとバトンを引き継いでいただき講演をお願いしています。次のバトンがどなたに手渡されるのか楽しみにしています！

報告：一麦保育園 主任 南岡ひとみ

## リーダーシップ養成研修会ステップⅠ

2023年9月14日(木)～16日(土)

座学：在日韓国基督教教会館(KCC)

フィールドワーク：生野の街

社会福祉法人愛信福祉会 愛信保育園

社会福祉法人聖和協働福祉会 大阪聖和保育園

NPO法人サンボラム在日コリアン高齢者支援センター大池橋サンボラム

NPO法人うり・そだん デイサービスさらんぱん

NPO法人出発(たびだち)のなかまの会

新型コロナウイルス感染症が5類に変更となったことで、4年前までと同じような14名の参加者がありました。とても嬉しいことでした。この人数規模が当たり前と思っていた考えが、コロナ禍の経験から当たり前でないことに気づき、また研修を多くの職員と学び共有し共感することの大切さをいっぱい感じさせてくれました。まだ感染症の不安が絶えない中でも、研修を快く受け入れてくださった愛信保育園、大阪聖和保育園、サンボラム、さらんぱん、出発の仲間の方には感謝の気持ちでいっぱいです。

初日はイエス団理事で聖公会生野センター総主事の呉光現氏に案内していただき、在日の方々が多く住まれている生野地域の、戦前・戦後・現在をゆっくりと歩きながら体感しました。朝鮮市場(御幸通商店街・コリアンタウン)や戦後の闇市のあとを残している「鶴橋国際マーケット」などの現場に立つと、生野の街に息づく匂いや空気、飛び交う会話など五感を通して“生野の街”を感じたのではないのでしょうか。在日韓国基督教教会館(KCC)では呉光現氏から在日朝鮮・韓国人の現在に至るまでの歴史や生野にお住いの在日2世の李承子氏のお話を伺いました。

呉光現氏のお話で印象に残ったことは、まず「関東大震災」の混乱の中、1,000人～数千人(正確な人数は不明)の朝鮮人が殺された事実を参加者のほとんどが知らなかったこと。在日朝鮮・韓国人への差別がヘイトスピーチのような形になっているが、「ヘイト暴力のピラミッド」(図参照)にあるように、ジェノサイドに近い「暴力行為」のステージまで日本はあること。このような現状を知り、呉光現氏から「共に生きるとは？」の問いから、「知らないこと

を知っていくこと」「小さな声に耳を傾けること」「それぞれを認め合うこと」を学びました。



在日2世の李承子氏のお話も伺いました。京都府舞鶴市で長年生活してきたオモニ。日本での生活の大変さはあったが日本人に対する恨みはほとんど話さず、子ども達を懸命に育ててきたお話を伺いました。幼少期、女性であることと在日であることで学校へ行くこともできず、70代に生野への引っ越しを機に、夜間学校の存在を知り、ずっと行きたかった学校で学びたいと通いだし、9年間通い続け今年3月に卒業。今も学び続けている姿から勇気をいただいた半面、隠された胸の内を日本人である私たちへ話すことは無かった、と講演後呉光現氏からお聞きした。現在行っているデイサービスでも通名を使っていること、意識的に日本社会へ溶け込まなければならない日本の社会環境であることに、私たち日本人が気付けていない自らの半生を感じるお話しでした。だからこそ、日本と朝鮮半島の歴史・在日の歴史をしっかりと知らなければと、感じた参加者も多くいました。



2日目は生野の地域課題を、自らの課題として施設運営されている方々の現場研修は、私たちイエス団としてもミッションステートメント(以下MS)2009の実践につながる学びとなりました。



3日目の「私のアクションプランをつくる」段階では、現場研修をヒントにそれぞれの施設・事業所の地域へ思いを広げ、私たちに何ができるのか、何を求められているのかを考える良い時となりました。今までにない視点で取り組みを考えることは容易なことではありません。日頃の業務の忙しさもありますが、宿題を持ち帰り、各々の場で再検討、再確認をしながら参加職員だけで取り組みでなく施設全体で取り組み、MS2009の新たな実現を目指していきたいと思えます。

ロシアがウクライナへ侵略戦争を始め1年半。また、パレスチナとイスラエルの新たな戦争が始まりました。「戦争があるから「平和」を求めるのではなく、常にMS2009「平和をつくりだす」を思い、それぞれの現場で何ができるのかを真剣に考えるきっかけしていきたいと思えます。



参加者のアンケートをほんの一部ですが記載します。今後参加を予定されている職員のみなさんの参考になればと思います。

- ◎ 無知では済まされない事をたくさん学んだので、まわりの職員や友だち、家族、みんなに伝えていかないといけないことに気づかされました。
  - ◎ 「知らないことを知っていくこと」「小さな声に耳を傾けること」「それぞれを認め合うこと」、この研修で学んだことを自分の中に刻んで、子ども達と過ごす中で差別のない社会に変えていけるよう、小さな事から目を向け自分にできることを見つけていきたいです。
  - ◎ 目の前の子ども達の問題もだが、地域の課題に目を向けていきたい。
  - ◎ 自分の中の「当たり前」や「常識」について、そうでない価値観の意見にも耳や目を向けることの大切さを感じました。それは、自然にできることではなくて、意識していくことを心掛けないといけないと思いました。
- など総じて、知らないことに知ろうとする大切さ、知ったことを伝える大切さ、自らできることをしていきたいという声がありました。

報告：企画委員会 研修担当チーム  
野の百合保育園 園長 井桁光

## 2023年度の研修を振り返って

研修生にとって、今何が一番必要なのかと考えた時に、「日常から離れて自分を取り戻す時間」ではないかとわたしは思います。新任研修では、イエス団の理念と出会い、神さまに生かされている自分を知ります。ブラッシュアップ研修では、自分がやってきたことを振り返り、仲間と語り合い、また新たな目標を見つけます。全体主任会では、忙しい日々から少し解放され、自分の時間を持ち、その役割について考えます。リーダーシップ養成研修Ⅰでは、生野の地で、これまでの自分の働きを振り返り、イエス団で働く一人の人として、これからどこに向かうのかを仲間と共に考えます。自分はこれから何をなすべきなのかと心が大きく揺さぶられ、これまで見てきた日常を大きく変換させられる時かもしれません。

それぞれの研修に派遣された皆さまは、「なぜわたしが」と思われたかもしれませんが、実は、「選ばれてここに來られた」とわたしは思っています。必要な時に、それぞれに与えられた研修です。さて、そこでどのようなことを感じ取り、現場で活かしていけるのでしょうか。

わたしたちスタッフ一同、出会った皆さまが今日もいきいきと、自分らしさを発揮して、そして、利用者の皆さまと真摯に向き合い、元気に働いていらっしゃることを願っています。皆さまと共に語り合い、学んだことをとても嬉しく振り返っています。

残念ながら、コロナが5類に変わったとは言え、場所や宿泊先の関係で、宿泊研修が思うようにはいきませんでした。少しずつ戻っていった今年の研修でしたが、2024年度は、更に皆さまとの学びが深められるよう、また、決して一人ではなく、イエス団には素敵な仲間がいることを実感していただけるような研修を行ってまいりたいと思っています。

「皆さまが大事」、そう、いつでも「大好き」です。

企画委員会 研修担当チーム  
チーフ 田村三佳子

# 施設紹介

## 神視保育園



〒653-0011 兵庫県神戸市長田区三番町4丁目8  
TEL : 078-576-4249 FAX : 078-576-4934



神視保育園は神戸市長田区の東部に位置します。

先日、神戸市の人口が150万人を下回ったというニュースが流れましたが、長田区は神戸市の中でも人口減少が著しい地域です。また、ベトナムや中国など外国にルーツを持つ人が多く住む地域でもあります。

イエス団は1919年に長田の地域に診療所を設置します。そして、地域の拠点となる天隣館を建て、そこで診療活動を続けます。その後、神戸市が天隣館で「神戸市立長田保育所」を開所。敗戦後の1946年に神戸市の公立第1号の保育所をイエス団に運営委託されます。

1963年には乳児保育の要請を受け、「天隣乳児保育園」が開園します。

その少し前の1957年、武内勝が賀川豊彦の支援を得て、無認可の「神視保育園」が開設されました。「神視」という名前は賀川豊彦が創世記21章の「神かえり見給う」から命名したと言われています。その翌年に認可されました。そして、



阪神淡路大震災では建物が倒壊し、たくさんの人から支援を受け、今の園舎が建てられました。

創立した時から地域の小さくされた人々に寄り添うことが大切にされ、それぞれの役割を担ってきた2つの保育園が2017年1つの保育園となり、現在の神視保育園となりました。この歴史を、ここで働く私たちが受け継ぎ、今の時代にあった地域支援ができるように考えていくこと、それはとても大きな課題です。子どもの貧困がクローズアップされるようになってきましたが、この地域でも様々な困難を抱えた家庭があります。特にコロナ禍では仕事がないということもよく耳にしました。小学校に通う兄弟が学校に行けないという話もよく聞きます。

子どもの育ちに悩む保護者もいれば、保護者自身の体調が思わしくなく、子育てをしたくてもうまくできない人もいます。子どもも大人も一人ひとりにいろいろな思いがあり、その思いに寄り添い、支援することの大切さは今も昔も変わらないことであります。

支援が保育園の間だけでなく、その後も途切れることなく、つながっていることが出来る機会として、学習支援・子ども食堂「てんりん」も行っています。現在小学校1年生から中学校3年生までの子どもたち15名が利用しています。「てんりん」が悩みや思いを話せる場所でありたいと考えているだけでなく、ここで出会った仲間は地域の仲間。地域の中のつながりができ、万が一、成長する過程で困難があってもこのつながりがあることで、解決できることもあるかもしれない。そのような出会いの場所になってほしいとも願っています。



現在135名定員で133名の子どもたちが利用していますが、その内23%が外国にルーツを持つ子どもたちです。生活習慣が違ったり、家で使う言葉は母国

語であったりし、入園当初は不安そうな顔をしている子どもたちもいます。保護者の方にもこちらから一生懸命にコミュニケーションを取ろうとしますが、足りない事もあり、気持ちがうまく通い合わないこともあります。今は中国語、ベトナム語を話せる職員が配置できているので、その職員が母国語で話すことは安心につながっていると考えます。また、日本語習得が出来ているかのように見える子どもたちですが、学習に必要な言語の習得が出来ていないこともあるので、5歳児の秋からNPO法人の協力を得て就学にむけての日本語教室も行っています。

今年度は「こころが満たされる」というテーマで保育をすすめてきました。子どもたち一人ひとりがありのままの自分を表現することができ、安心してできる場所でいろいろなことに目を向け、やってみる、チャレンジする、失敗しても大丈夫と思えるような保育をしたいとみんなで考えました。子どもたちの目はキラキラと輝いています。無我夢中であそんでいる子どもたちの様子をそっと見守り、子どもが振り向いたときには一緒に喜んだり、感動したり、悲しい思いに寄り添うことができるよう、私たち職員も日々学び、努力していきたいと思っています。これからも地域の中の保育園の役割を果たしていけるよう、見えないものに目を向けて歩いていきたいと思えます。



園長 植月 優子

天使虹の園は此花区にある0~2歳児の保育園です。施設の生い立ち等、2011年に新築建替え工事をするまでに、イエス団報14号に記載しておりますので割愛させていただきます。

2011年に建替えをするにあたって、建物も新しくするのだからと保育を一新しました。それまでは乳児でも一斉保育や設定保育を行っており、子どもたちや保育士に負担がかかっている上に、「一人一人その子に合った支援をして、育ちを保障する」ことが十分できていないと感じていました。そこで育児担当制とコーナー保育を取り入れました。

保育を新しくすると言葉でいえば簡単ですが、まずは私が学び、その上で職員を育児担当をしている園に研修に出し、日常の保育の流れ、行事、給食の見直し、環境の設定等を当時の職員と一つ一つ創り上げていく作業はとて大変なものでした。また、天使3園は、保育も同じ形をとっており、職員の異動も必ずある中で、虹の園だけが保育を変えていくということだったので、他の2園の職員の考え方も刺激しながらの改革であり、虹の園の当時の職員の負担は相当なものだったと思います。そんな職員のモチベーションを上げ、支え、認め、励まし、「今の頑張りは必ず目の前の子どもの育ちに繋がっている」とみんなで信じてやってきました。

あれから12年。より良い保育の形をと毎年マニュアルの改訂をしながら、育児担当制はすっかり虹の園の大切な軸になりました。職員も担当制をすることで、子ども一人一人に向かい合うことができ、会議では、年齢やクラスが違う子どもの個人カリキュラムでも職員同士がしっかりと意見を出し合い検討しています。行事や日々の保育についても子どもにとって本当に必要か？子どもにとって最も良い取り組み内容になっているか？大人の都合で流されていないか？その活動で子どもにどんな力をつけようと思っているか？など検討を重ねてきたことが子どもの育ちに繋がっていると職員も自信を持って保育することができています。また今では虹の園に影響を受けた天使の他の2園も、担当制の良さを感じ、同じ保育を行っています。



もう一つ虹の園で力を入れてきたことがあります。きっかけは10年前の一人の作業療法士さんとの出会いです。園にはある一定数発達がゆるやかであったり、

特性にあふれた子どもが通ってきています。そのような困難を抱える子どもを、特に療育の視点から支援することで、できるだけ早く生きづらさをなくしていくことができるよう、作業療法士さんに定期的に来てもらい巡回指導をしてもらっています。訪問日、職員は作業療法士さんと一緒に保育をし、その後しっかりと振り返りをするので、

その次の目標を具体的に定め、その子に向き合って保育をすることができます。また、子どもだけでなく、保護者支援も両輪で行い、不安で揺れる保護者の気持ちに寄り添いながら、共に子育てをしていっています。職員が足りない状況で特性のある子どもを受け入れることはとてもハードなことですが、厳しい中でも職員は不満も言わずその子の育ちを支援し、成長を喜んでくれており、本当に感謝です。



施設の環境もこの12年で大きく変わりました。建替え時に芝生であった屋上のスペースも、職員から声があがり畑に改築されました。今ではすっかり四季折々の収穫物が育ち、乳児であっても子どもたちが自分で種を蒔き、水をやり、変化を感じて、そして自分で収穫し、旬のものを美味しく食べるという命を支える活動がより身近にできています。

実は夏には毎年スイカを植えるのですが、ある年黄色いスイカの苗が紛れ込んだことがあり、スイカ割りをして子どもとびっくり大喜び



したことがきっかけで、必ず黄色いスイカ苗を忍ばせています。保育園での黄色いスイカが印象に残り、ひいては地球の環境保全を考えられ

る大人になってくれたらいいなあと思っています。

園庭も緑があふれ、色々な虫が集う場所にと願い、狭いながらもたくさん樹木を植えました。その木々も10年たつてすっかり大木となっており、毎年さまざまな虫が寄ってきています。園舎玄関にはいつも虫アミが置いてあり、いつでも職員と子どもたちが虫探りをし、じっくり観察したり、育てたりすることができています。都会の中にある保育園だからこそ、命と触れ合い、自然の中で神さまの存在を感じることができるよう、環境をみんなで作っています。



その他、外壁工事も行い見た目はすっかりきれいな園舎になりました。今後は施設の老朽化や少子化など、地域のニーズに合わせて施設をメンテナンスし、同時に保育

も変えていかなければなりません。担当制は終着点ではありません。目指すところは「担当制をしなくても一人一人を丁寧に保育できる」保育園。



いつの時代でも、職員と子どもファーストの視点を持ち、また子どもだけでなく保育園に集う大人も（私も）自分らしく生き生きと暮らせるように、これからも職員と足並みをそろえて歩んでいきたいと思っています。

園長 柳本 英里

# 内部通報制度とコンプライアンス の重要性について

イエス団では、職員一人ひとりが「法令、社会規範、規則、ルール等を守る」とともに、組織的又は個人的な違法行為があった時に役職員の方が通報できる外部窓口を設け、不正行為等の早期発見と是正を図り、コンプライアンス経営に役立てています。

この制度は施設でもすでに周知いただいていると思いますが、より具体的に理解いただくため、今回社会保険労務士法人 ベスト・パートナーズ代表社員の米田憲司先生に、「内部通報制度」と「コンプライアンスの重要性」について、わかりやすく解説いただきました。イエス団の信頼を高めるためにも、ぜひ理解を深めていただきたいと思えます。

イエス団は「ハラスメント・公益通報窓口」を、社会保険労務士法人ベスト・パートナーズに設置しています。  
本部事務局

## 内部通報制度

2020年6月に公益通報者保護法が改正されたことにより、常時300人以上の従業員がいる事業者に「内部通報制度」の整備をすることが義務付けられました。

「内部通報制度」は事業所内における違法行為などの通報を促すために、従業員に向けた通報窓口を設置したうえで、通報者を保護する制度です。

内部通報というどうしても告げ口のようなイメージされる方もいらっしゃるでしょうが、公益通報を行ったことで不利益な取り扱いをすることは禁止されているので、企業としても幅広く情報を受け付けることにより自浄作用を活かし、コンプライアンス向上にもつながる施策として活用できると考えられています。

今回は「内部通報制度」について、ポイントをご説明いたします。

### 【内部通報制度の目的】

内部通報窓口は、企業にとっての不祥事を早期発見・早期対応することを目的に設置します。内部通報窓口を通じて、事業所内における違法行為を未然に防ぐこと、または早期に発見できる可能性が高まるのです。

### 【内部通報制度の必要性】

内部通報窓口が設置されていなければ、企業内部での不正リスクを把握することが不十分になるため、データの隠蔽やセクハラ・パワハラ等の不適切な行為がなされたとしても対処することが難しくなります。

万一、企業の役員や従業員による違法行為が明るみに出れば、法人が刑事罰や行政処分などの対象となるほか、社会的評判も地に落ちてしまいます。内部通報制度はこのようなコンプライアンス上のリスク回避の観点から効果的です。法人を守ることで従業員の雇用の確保も維持できます。

### 【通報者】

内部通報をしたことで不利益な取り扱いを受けるとしたら、誰も窓口を利用しないのは明らかです。通報者を守る取り扱いが非常に重要です。

通報する資格があるのは労働者です。正社員だけではなく派遣社員、アルバイトやパートタイマーなども含まれます。

労働基準法第9条では、「職業の種類を問わず、事業または事務所に使用される者で賃金を支払われる者」と労働者を示しています。また、公益通報者保護法改正によって、これまでよりも「公益通報者」として保護される人の範囲が広がりました。次の人も公益通報者として保護の対象となります。

- ・1年以内に退職した人・1年以内に終了した派遣労働者
- ・役員

### 【通報内容】

通報の内容は、法令違反が発生した、またはリアルタイムで法令違反が起こりそうというものです。対象となる法令には、次のようなものがあります。

- ・刑法・労働基準法・廃棄物処理法・個人情報保護法
- ・不正アクセス行為の禁止等に関する法律 など

これら法令に違反する犯罪行為、または最終的に刑罰につながる行為が通報対象です。

### 【通報の例】

代表的な通報事例を挙げてみます。

- ① パワハラ...日頃から部下に対して「馬鹿野郎！やる気あるのか？ないなら帰れ」などの暴言を繰り返していた上司を部下が通報して発覚
- ② セクハラ...女性社員が男性社員から執拗に食事やお酒の席にしつこく誘われて迷惑していると通報
- ③ 交通費の着服...通勤の際、公共交通機関を利用している旨の届出をしておきながら、実際は自転車で事業所の近くまで乗ってきて、バレないように事業所外で自転車を停めているのを目撃したと通報

### 【通報する内容ではないもの】

先程の通報の例とは異なり、通報に適さないものの例を挙げてみます。

- ① 悩みや不安...職務上の悩みや不安などを訴える。
- ② 社内ルールへの反発...社内のルールが不満でそれに対する体制批判。

※当然ながら社内の担当部署に相談してください。

- ③ 誹謗中傷...他人を誹謗中傷するような内容、噂話レベルの情報は受け付けできません。

### 【独立した通報窓口】

一般的に、通報窓口は事業所内に設置されることが多いと思われませんが、イエス団の場合は外部通報窓口を設置しています。

通報を受けて調査を実施することになった場合、その対象者が通報者を推測することができないように、通報があった事実を伏せておく必要があります。

電話で通報が入ったときに、そのやりとりしている会話を周囲に聞かれたり、通報を受け付ける面談の際に、窓口担当者以外にも誰が面談に来ているかがすぐにわかってしまうのでは通報者の秘密が守られません。

## 【まとめ】

データの改ざん、パワハラ、セクハラ、不正会計、従業員に対する違法な過重労働等々。企業の不正行為や法令違反に関する報道は後を絶たず、不祥事が原因で解体にまで追い込まれた企業も存在します。

企業経営におけるコンプライアンスに対する取り組みがますます重要視されています。内部通報制度は企業のコンプライアンス体制やガバナンスを構築する制度のひとつとして、重要な役割があります。

企業のコンプライアンス体制について厳しい目が注がれるようになる中、内部通報制度は「自浄作用」としての役割が期待されているのです。

社内に内部通報制度があることをみなさん一人ひとりが認識することで、不正行為や法令違反を行えば自分が通報されるという一種の緊張感が生じます。

これにより、不正行為や法令違反をしづらくなり、不祥事を未然に予防する効果が期待できます。

また、内部通報制度により、不正行為や法令違反の存在を早期に発見することが期待できます。早期の発見、早期の是正により、不祥事が拡大することを防ぐことが期待できるのです。外部に公表されることを防ぐことができれば、法人の信用棄損を回避することができます。

## コンプライアンスの重要性

コンプライアンスはもともと法令遵守という意味です。近年は、法令のみにとどまらず、

- ・企業理念・社会規範・企業で定めている規則やルール
- ・常識的に考えてモラルに反する行動

なども含めて語られることも多くなっております。

コンプライアンス意識が高い状態というのは、全従業員が法律や規則、常識的なモラルについて理解しており、一丸となって守り抜く姿勢が保たれている状態です。

次に、コンプライアンス違反でよく見られる実際の例をご紹介します。

A 不正会計、不正受給 B ハラスメント C 情報漏えい

### A 不正会計、不正受給

不正会計とは「財務諸表の改ざん」などを言い、不正受給は「国からの助成金等を虚偽申請で受給する」などを指します。いずれも発覚すると信用が地に墮ち、社名が公表されたり、最悪の場合は詐欺罪で送検され、最終的に倒産することもあります。バレなければ大丈夫などという安易な考えで不正に手を染めることのないようにしなければなりません。

### B ハラスメント

職場における代表的なハラスメントとしてパワーハラスメントがありますが、これもコンプライアンス違反です。厚生労働省では以下の①～③のすべての要素を満たすものをパワーハラスメントの概念としています。

- ① 優越的な関係を背景とした言動であること
- ② 業務の適正な範囲を超えて行われること
- ③ 身体的もしくは精神的な苦痛を与えること、又は就業環境を害すること

なお、客観的にみて業務上必要かつ相当な範囲で行われる適正な業務指示や指導については、職場におけるパワーハラスメントには該当しません。パワーハラスメントのほかにも様々なハラスメントがありますのでいくつかご紹介します。

- ・セクシュアルハラスメント・マタニティハラスメント
- ・モラルハラスメント・アルコールハラスメント
- ・ジェンダーハラスメント など

ハラスメントの正しい知識を身につけ、言動に注意して職場のお互いが気持ちよく働くことができるようにすることが肝要です。これまでの社風や事業所内での常識が今の時代には通用しないことが多くあります。今までの「普通」が今も「普通」なのか改めて確認することも必要でしょう。

万が一、ハラスメントの被害にあったときは、はっきりと意思を伝えましょう。受け流しているだけではハラスメントの状況は改善されません。「やめてください」「イヤです」と声をあげましょう。我慢、無視をしたりすることで、さらに状況が悪化することもあります。

ハラスメントの外部相談窓口も設けられていますので、お困りの際は窓口にご相談ください。

### C 情報漏えい

最近急速に、IT化やデジタル化、SNSが発達するなど目まぐるしく変化しています。部署のみならずタブレットを共有で使用する等々、IT化を肌で感じる機会も多いのではないのでしょうか？パソコンの他、次のようなものがIT資産になります。

- ・PC・スマートフォン・タブレット機器・サーバー
- ・ネットワーク機器

IT化が進んだことでIT資産がどんどん増えて、管理に対する姿勢がさらに重要視されるようになっていきます。まれに個人情報が出たというニュースを耳にする機会があると思います。個人情報の流出はコンプライアンス違反となり、企業の信用をガタ落ちさせてしまう要因です。上場企業であれば株価の大暴落を引き起こしてしまいかねません。

万が一に備えて、社外で社用スマホを使用する際の注意点など、コンプライアンスの意識を持って行動することが重要です。また、SNSの普及により、誰でも簡単に不特定多数の人へ発信を行えるようになりました。不正や不祥事が拡散されるリスクも高くなっています。そして、世間も不祥事に対して敏感で、厳しい目を向けるようになりました。対応を誤ると取り返しのつかない事態を引き起こしてしまいかねません。コンプライアンスについての学びは一度で完了するものではありません。法令の改廃により、コンプライアンスは不変のものではないからです。

コンプライアンス意識を向上させることの重要性についてお伝えしましたが、法人全体でコンプライアンス違反のリスクについて共有していくことがますます必要であり、イエス団の発展につながると信じるところであります。

社会保険労務士法人 ベスト・パートナーズ  
代表社員 米田 憲司

# イエス団の輪っ



子育てひろばの双子さんと

## 兵庫ブロック 甲子園二葉幼稚園 黒川 陽子さん 「つなぐ、つながる」

この度、みどりの保育園さんから「イエス団の輪っ」のバトンを受け取りました甲子園二葉幼稚園で主任をしています黒川陽子です。甲子園二葉幼稚園に勤めて27年目に入りました。実習生としてお世話になり、1997年に就職してから、クラス担任、子育てひろばのスタッフ、そして現在は子育てコンシェルジュとして携わらせていただいています。クラス担任時代は子どもたちや保護者の方と、子育てひろばではひろばに遊びに来られる親子と、子育てコンシェルジュになってからは地域の親子やたくさんの支援者の方と出会い、つながってきました。イエス団の施設の中では、いろいろな研修や集まりなどを通して他施設の方と出会い、イエス団の一員として何ができるのかを話し合うことで同じ思いを持って働いている仲間がいることに励まされました。つながるということは、安心できることだと感じています。

甲子園二葉幼稚園は、子育て支援として2015年に地域子育て支援拠点事業（子育てひろば）を、2020年に利用者支援事業（子育てコンシェルジュ）をはじめました。

子育てひろばでは、子育ての日々の悩みを一緒に共感したり、お子さんの成長と一緒に喜んだり。「また来ます！」と来た時より元気になって帰ってくださる姿をいつも嬉しく思っていました。子育てコンシェルジュとしては、地域で子育てをするお母さん、お父さんの相談を幼稚園で受けたり、また担当地域の親子が集まる場所に出向き、おしゃべりしながら子育てに関するお話をしたり、相談を受けたりしています。相談を受ける中で、困りごとはさまざまでその解決方法も一人ひとり違い、同じではありません。どうしたらいいのかを一緒に考えて、必要な場合は専門の関係機関につなぐ。時には答えが出ないこともあります。お話を聞くこと、思いに寄り添うことを大切にしています。「少しすっきりしました！」という言葉に私自身励まされています。

子育てコンシェルジュをはじめた時は、子育てに関する制度や関係機関について分からないことばかりで、同職の方やたくさんの支援者の方に教えてもらい、助けてもらいました。相談に来られる方にも、独りで抱え込まず、誰かに助けを求めると必ず手を差し伸べてくれる人がいるということ、また解決することはできなくても誰かにつながり

悩みを知ってもらうことでちょっと安心できることを感じてもらえたらと思っています。

これからもイエス団の施設として地域の方が幸せに過ごすために何が必要なのか、私に何ができるのかを考え続け、できることを実行していきたいと思います。そのために、私自身これからもたくさんの人とつながっていきたくです。

今回このような機会を与えていただき、改めて今までのことを振り返ることができたことを心から感謝しています。ありがとうございました。次回は、杉の子保育園さんにバトンをつながせていただきたいと思います。よろしくお願いいたします。



## 四国ブロック 豊島ナオミ荘 清水 正樹さん 「隣人とイエス団」

高齢者通所介護（デイサービス）で生活相談員を担当させていただいている清水です。

まずはじめに、四国ブロックをはじめイエス団の他事業所の皆さん及びJBFには、「豊島」においても、さまざまな活動や交流など大変お世話になっていることを心より感謝申し上げます。ありがとうございます。

さて、ナオミ荘は香川県の瀬戸内海に浮かぶ豊島にあります。人口約750人のこの島の高齢化率は50%超、人口減少高齢化の進む日本においてもかなり進んでいる地域と言えるでしょう。ただ、ここ5年くらいは移住者とその子供、また島で新たに生まれる子などが増加していることで、人口は横ばいで移行している感じです。瀬戸内国際芸術祭の影響であることは間違いないですが、豊島という島自体の認知度が上がったことで、年間を通して多くの国内外からの観光客が途絶えず、それと相まって移住者も増加している状況です。

それでは、この豊島で生活する者として感じていることを伝えたいと思います。

豊島では、良くも悪くもご近所さんづきあいや地域のイベントごとへの参加が当然のことだと認識されています。そうすると、おのずと他者との関係性は深く近くなり、島外に住む自身の家族以上に自分のことを知る存在となります。また他者のこともその人の家族以上に知る存在となります。一般的に人は自身が属する集団やコミュニティに強く関わって生きています。逆に言えば、そこから外れた人や世界には無関心だったりします。これは特別なことでなく、意識しなければごく当たり前のことです。

私たちも同様に、活動している内容や場所が離れていると、どうしてもお互いのことが意識から薄れてしまうのではないのでしょうか。イエス団というコミュニティに属す



る私たちは、それぞれが自身の置かれた場所で与えられた課題に向き合い、子供や障がい者、高齢者、また地域と共に生きています。日々関わる人や仕事の内容、活動する場所が違っていても、私たちの行動そして思いは繋がっているのです。

例えば、イエス団のMS2009に「隣り人と共に生きる社会をつくりだす」という文言があります。自己解釈になりますが、ここでいう隣人というのは自分の身近にいる人だけが対象なのではなく、イエス団という一つの共同体の仲間たちを通じて、離れた場所にいる多くの隣人に仕えているのだと思っています。それぞれが自分にとっての隣人を思いやり、共に生きることで社会全体が生きやすい場所になっていくのだと。

それでは、離れた場所で頑張る多くの仲間たちの日々の活動に感謝し応援するとともに、自身に与えられた課題に精一杯向かい合うことを誓い、今回のご報告とさせていただきます。次回へのバトンですが、光の子保育園さんにお渡しいたします。



兵庫ブロック 神視保育園 野田 陽子さん

### 「23年の歩み～イエス団とともに」

この度、宇山光の子保育園の佐倉 愛美さんよりご指名を頂きました。神視保育園の野田 陽子です。今回このお話を頂いた時、正直「私は無理です。もっと他の方に...」と言っていたのですが、これも何かのご縁なのかなと、こんな素敵なイエス団報に載せて頂けるなんて「ありがたい!!」とプラスに考えて、お受けすることにしました。

私はイエス団に就職してから23年目を迎えました。この23年の中で3度の異動を経験し、今は神視保育園に戻り働いています。

私とイエス団との出会いは専門学校からでした。賀川豊彦先生が創設された保育の学校に通い、実習でお世話になった園からお声掛けを頂いて就職することが決まり、今思うとこのタイミングで私がイエス団と出会えたことは、神さまに導かれていたのかなあと感じています。それからがイエス団とのつながりの始まりです。

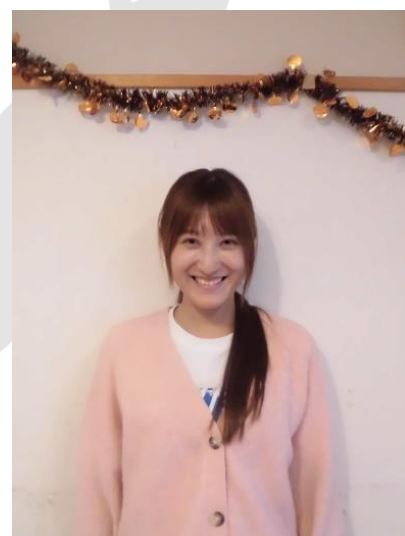
日々子どもたちの成長を側で見守りながら保育をしていく中で、子どもとの関わり方、保護者の方との関係作り、先輩職員との関係など保育について、また保育園で働くということについて様々なことを学ぶことが出来ました。この23年、たくさんの人に恵まれ、周りの人に支えられ現在まで勤めることができているのも神さまがずっと側で見守ってくれているんだと感じております。

また、JBフェローズにも携わることが出来て、それまでは園内のことしか目を向けられていなかった私ですが、担

当をさせて頂いたことで兵庫ブロックにある園のこと、イエス団のことについて知る機会が増えてきました。

そこから、イエス団の仲間との人間関係が広がってきたように思います。公開保育や他の園のお手伝いに行かせて頂いたり、ハンセン病研修などの場にも参加させて頂く中で、兵庫ブロックだけではなく大阪、京都ブロックの方たちとの関わりをもつことが出来ているのは、イエス団の職員でなければできなかったことなので、いい経験をさせてもらっているんだなあと改めて思いました。

コロナも少しずつ終息を迎え、以前の生活に戻りつつありますが、人との「つながり」がすごく感じにくい世の中になってきております。でも私はこのイエス団の中で繋がった人たちとの関係を大切にしながらこれからも日々精進していきたいと思っています。今はまだなかなか会える機会がないのですが、また交流会などそういう場が増えていければと願っております。次回は野の百合保育園さんをお願いしたいと思います。宜しくお願い致します。



大阪ブロック ガーデンロイ 横谷 綾香さん

### 「養育についての私なりの考え」

この度、聖浄保育園さんよりバトンを受け取りました。東大阪市にある児童養護施設ガーデンロイの横谷綾香です。

今回は大学時代から社会人5年目の現在、数えて約10年、福祉や保育の現場で勤めていて感じてきた養育についての私なりの考えを共有したいと思います。

私は学生時代に様々な現場を経験しました。一時保護所でのアルバイトや児童養護施設のボランティア経験を約4年間、短期間ですが知的障害者ヘルパーのアルバイトや児童心理治療施設、児童相談所、保育園での実習と沢山経験させてもらいました。社会人となってガーデンロイに勤めはじめ、女兒ホームを2年間、フリーの職員として1年間、現在は男児ホームで2年目となります。

学生時代から様々な領域の子ども達と関わってきて思うことは、養育は本当に「北風と太陽」のようだということです。こちら側が思うように声掛けをしたり促したりしても子どもは聞かず持ちません。しかし子どもの行動の意図や気持ちの背景に目を向けて、寄り添った声掛けや行動をすることで、子ども達は初めてこちら側の想いを聞いて行動してくれます。自分自身のことも「ああ、今は北風になっているな。太陽でじっくりと溶かすにはどうしたらいいかな」と自身の仕事ぶりの指標にもなっていて、この考え方はとても良いです。(笑)

一筋縄ではいかない分、子どものことを思って日々立ち

はだかる障壁に対し、あの手この手を仲間と考えつづけるのがこの仕事です。正答はなく、後になってからも「あれが正しかったのかなあ」と悩むことも多いです。しかし選んだ道を正解にすること、言ってしまうと「施設で育ったあの時間、良かったなあ」と思ってもらうそのために働いていると言っても過言ではないでしょう。今は思えなくても、10年後でも30年後でも後からどこかでそう感じてくれればいいのです。そして仲間と「う～ん」と唸りながら子どもたちが幸せに生きる方法を考える時間が、私にとってはとても幸で価値のある時間だと感じています。

「子どもが好きで入職したけど、子どものことを可愛いと思えなくなってきた」という言葉を残念ながらよく耳にします。大人も人間ですから当然の感情です。しかし「子どもが好き」という感情を「仕事」が押しつぶしている現状は悲しいと感じます。どうしたら子どもへの情熱が注がれつづけられるのか、組織としての運営を視点に、個人的に考えていきたいと感じるテーマです。

私は、組織の中で守ってほしいラインを強要するような環境であると、子どもと接することを窮屈にしてしまうことが出てくると感じます。しかし組織運営していくにおいて、ある程度の枠組みは必要のため、それを後輩たちに教えていく必要はあります。それぞれの入職者もつ子どもへの情熱が削がれないようにその気持ちを認め、育みながら指導していきたいと感じるばかりです。

最後になりましたがここまで読んで下さり、ありがとうございます。今行っている養育、子どもや職員への関わりがすべていづれ意味のあるものになることを信じ、願っています。そして良い養育とは何かについては永年考えつづけることが大切で、与えられた使命です。そのことを忘れずに初心を思い返しなが、まっすぐに児童福祉問題に取り組み続けていきたいです。次回はガーデンエルさんにバトンをつながせていただきます。よろしくお祈りします。

## 表紙写真の解説

社会福祉法人・学校法人 イエス団  
Jesus band news  
2023/12/24  
28  
第122号

■ 理事長 高橋清一 神崎清一  
■ 副理事長 高橋清一 神崎清一  
■ 甲子園二葉幼稚園創立100周年記念  
■ 新編報告  
■ 聖地巡礼  
■ 神視保育園  
■ 認定こども園  
■ 「内閣府報告」と「コンプライアンスの  
■ 誠実」について  
■ 社会福祉法人イエス・バプティストスズ  
■ 代表社員 水野 忠司  
■ 「文芸春秋」  
■ 高橋清一さん（甲子園二葉幼稚園）  
■ 清水正樹さん（豊島ナオミ荘）  
■ 田岡三千代さん（育愛館）  
■ 横谷綾香さん（ガーデンロイ）  
■ 編者の挨拶  
■ 高橋清一

発行：2023年12月24日  
発行所：編集 第一  
編集・発行：  
社会福祉法人・学校法人 イエス団  
〒851-0076  
兵庫県芦屋市中央区菅原通5-2-20  
TEL: 078-221-9565  
FAX: 078-221-9566  
http://iesuband.jp  
mail to: hnb@iesuband.jp

ミッシェル・ステートメント2009  
わたしたちイエス団の実践は、  
1909年12月24日の賀川豊彦の献身に始まる。  
そして、イエスの愛に倣い、互いに仕えあい、  
社会を愛し、新しい社会を目指して  
多くの活動者とともに今日まで歩み続けてきた。  
この歴史を検証し、働きを引き継ぎ、  
今、わたしたちはイエスに倣って生きる。

わたしたちは、いのちが大切にされる 社会をつくりだす  
わたしたちは、隣人と共に生きる 社会をつくりだす  
わたしたちは、違いを認め合える 社会をつくりだす  
わたしたちは、自然が大切にされる 社会をつくりだす  
わたしたちは、平和をつくりだす

2009年12月24日

1. 【ナオミ荘】 「デイサービス」  
「楽しみにしているデイ。みんなで健康体操。」
2. 【天使ベビーセンター】 「募金活動」  
遠く離れたところで困っている人に自分たちができることは？と募金活動を行いました。
3. 【二宮保育園】 「大丈夫、大丈夫…」  
いつも子どもたちの安全地帯でありますように
4. 【天使保育園】 「田植え」  
わたくしたちは、神が与えた、「自然」を日々の生活の中でどのようにして感じられるようにしていくのかを、大切にしています。
5. 【児童養護施設ガーデンロイ】 地域小規模ホームでは、毎月2回児童と一緒に夕食のメニューを考え、買い出しから調理までを一緒に行っています。この日は手作りコロケで、沢山おかわりをしてくれました。
6. 【宇山光の子保育園】 年長組の野外活動「アクトパル宇治」にて。自然の中で、色々なものを発見し、体いっぱい、心いっぱい、遊んできました。
7. 【みなべ愛之園こども園】 「秋とうもろこしの収穫」  
農家さん、児童民生委員さんなど地域の方々と繋がり、一緒に秋に実るとうもろこしの収穫体験をさせて頂きました。(3, 4, 5 歳児)
8. 【甲子園二葉幼稚園】  
甲山から見える大空と森林を満喫しています。

### 編集後記

2023年は新型コロナウイルスが5類に移行し、社会が活気を取り戻し始めました。しかし、ロシアとウクライナの戦争は長期化し二度目の冬を迎えようとしています。そして、イスラエルでもイスラエル軍とハマス軍がお互いの正義を振りかざして激しい戦闘が続き、病院までもが空爆される事態に陥っています。犠牲者には多くの子どもが含まれるという、心が引き裂かれるような報道が連日されています。今年には関東大震災から100年です。100年前の日本でも疑心暗鬼からデマが広がり、それを信じた地域住民等によって朝鮮人らが虐殺されました。研修報告のリーダーシップ養成研修会ステップIでも「知らない事を知ろうとする。知った事を伝える。自分にできる事をしていく。」など学びと気づきが与えられました。世界中にプロパガンダが横行しています。マルコによる福音書13章33節に「気をつけて、目を覚ましていなさい。」とあります。私達はしっかり目を覚まして、情報の真偽・表裏を見極めたいものです。